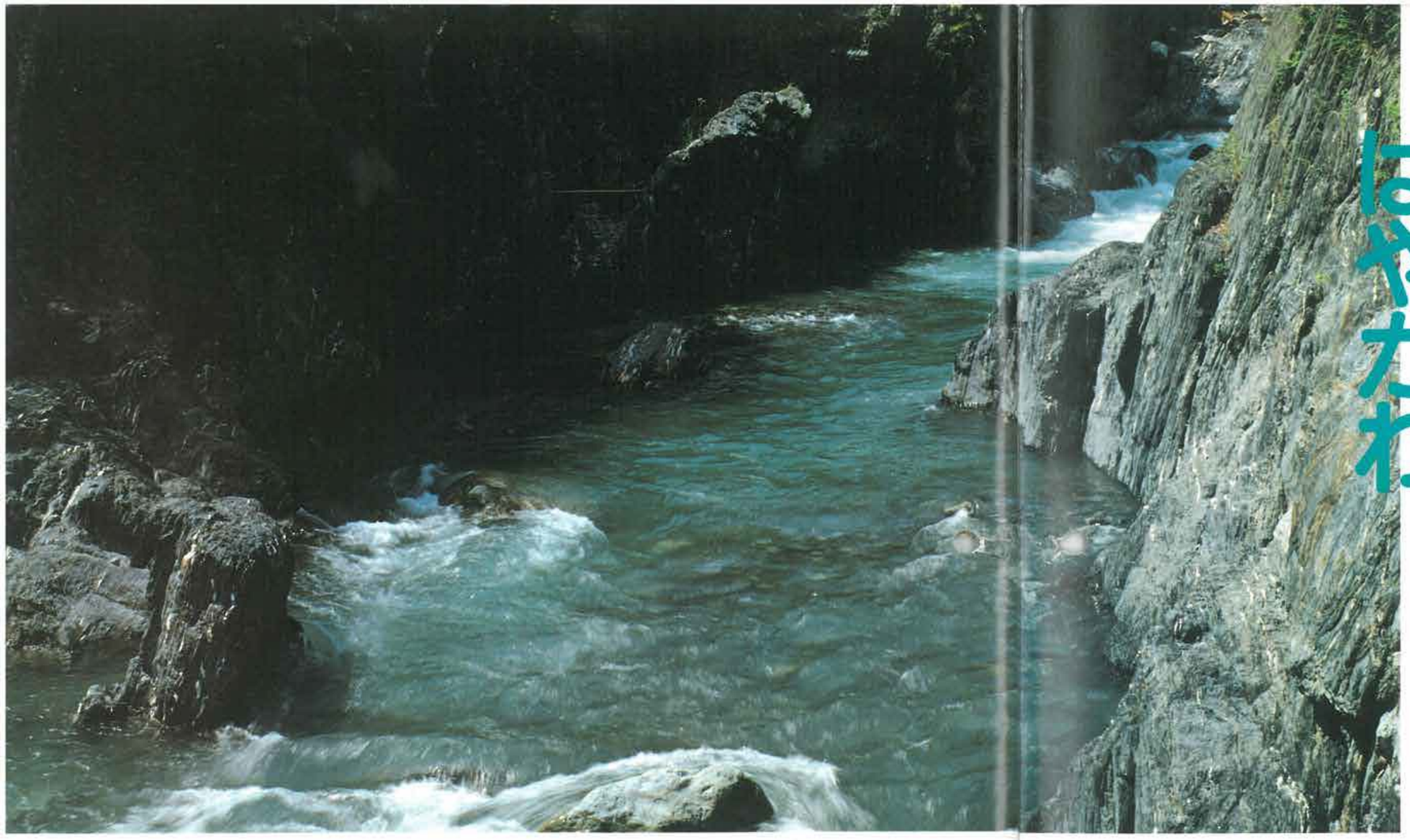
はやかわ
自然の恵み・人のふれあい
町制施行30周年記念
早川町●町勢要覧'86



はやかわ

発刊に寄せて

私たちの町は、ここに町制施行三十周年を迎えました。

記念すべき時にあたり、町政にお寄せいただきました皆さんのご協力を、そして先人の方々の町づくりにお寄せいただきましたご努力に深く感謝とお礼を申し上げる次第であります。

私たちは、この機会を、これからの町づくりへの節とし、また力強く新たな第一歩を踏み出すことを誓い合いたいと思います。

〝うるおいと活力のある町〟をめざし新長期計画がスタートし三年になります。みんなが安心して定住できる町でありたいし、その上、自分たちの町をみんなが誇れる町でありたいことを願い、一日も早い実現を図りたいと努力を続けているところです。

しかし、本町をとりまく自然や風土、地理的条件は、これまで長い間、このことに厳しく制約を加えてきたと言えるし、これからも覚悟をしなくてはなりませんが、事実を直視しながら、勇気をもってこれをのりきって行かなければなりません。

本冊子は、今日まで五年間、1／20世紀の歩みとこれからの可能性を探ってみました。早川町の厳しい自然を、恵みとし活用しながらふるさとづくりを進めることが、本町の命題であると考えます。

あと十数年で二十一世紀がそこまできているわけですが、今、私たちがしておかなくてはならないことは何か、後世に何を残さなくてはならないかを常に念頭におきながら一歩一歩これからも歩み続けようではありませんか。

皆さんのより一層のご協力を心からお願いいたします。

早川町長　辻　一幸

早川町町民憲章

わたくしたちは、恵まれた自然と先人によってつちかわれた温かい人情を大切に、調和のとれたうるおいと活力にあふれる早川町の建設をめざしてこの憲章を定めます。

昭和五十六年九月十一日制定

一、自然を愛し、自然との語らいを求める町民となります。
一、たがいに助け合い、心のふれあいを大切にする町民となります。
一、スポーツに親しみ、身も心も健やかな町民となります。
一、いつでもどこでも語り合い、学び合う町民となります。
一、豊かな暮らしを求め、喜んで働く町民となります。

早川町30年間のあゆみ

- ●昭和31年
- 9・30 旧西山村、三里村、都川村、硯島村、五箇村、本建村の六箇村が合併し、早川町となる
- ●昭和32年
- 2・17 早川町消防団結成出初式
- 4・10 県営西山発電所竣工
- 11・23 役場新庁舎落成式
- ●昭和33年
- 8・21 早川町森林組合設立
- ●昭和34年
- 4・1 早川南中学校開校
- 9・26 台風十五号（伊勢湾台風）
- ●昭和35年
- 12・25 奈良田部落全戸移転を完了
- ●昭和36年
- 4・25 茂倉車道開通式
- 大原野車道開通式
- 5・19 西山中学校竣工式
- 11・17 町歌制定発表会
- 11・24
- ●昭和37年
- 4・21 南中学校竣工式
- 5・23 県営奈良田発電所竣工式
- 10・15 本建小学校竣工式
- ●昭和38年
- 5・1 雨畑林道竣工式
- ●昭和39年
- 4・1 西山小学校奈良田分校を廃校
- 12・4 茂倉林道竣工式
- ●昭和40年
- 7・10 給食センター竣工式
- 9・13 上湯島道路竣工式
- ●昭和41年
- 4・1 県立南アルプス巨摩自然公園指定をうける
- 8・22 久田子車道竣工式
- 10・22 町立青少年の家を開設
- ●昭和42年
- 6・17 草塩橋竣工式
- 11・1 茂倉道路竣工式
- ●昭和43年
- 3・27 奈良田部落道路竣工式
- 4・1 本建小、五箇小を統合南小学校開校
- 9・20 明治百年記念式町花、町木を制定
- ●昭和44年
- 3・31 茂倉分校閉校
- 9・10 栄代橋竣工式
- ●昭和45年
- 10・20 硯島診療所竣工式
- 12・10 全町に地域集団電話開通
- ●昭和46年
- 5・15 あすなろ林業研究グループ県第一回グリーン賞を受賞
- 6・23 三共診療所竣工式
- ●昭和47年
- 10・26 笊ヶ岳、雨畑湖自然保存地区指定
- ●昭和48年
- 4・1 室畑分校を硯島小中学本校に統合
- 5・10 雨畑製茶工場完成
- ●昭和49年
- 2・18 広域消防三里分駐所開設
- ●昭和50年
- 3・31 老人いこいの家、民俗資料館開設
- ●昭和52年
- 4・1 早川北小中学校開校
- 5・3 第一回山菜祭り
- ●昭和53年
- 3・30 町民スポーツ広場竣工式
- 4・10 早栄橋竣工式
- ●昭和54年
- 4・27 町民会館竣工式
- 5・24 町営草塩温泉オープン
- ●昭和55年
- 5・27 町民体育館竣工式
- 8・27 草塩林道開通式
- ●昭和56年
- 2・9 防災行政無線竣工式
- 3・23 高齢者生産活動センター竣工式
- 9・11 町民憲章制定
- 10・20 町民憲章記念碑建立
- ●昭和57年
- 3・14 都川小学校閉校式
- 4・23 大島町営住宅竣工式
- 8・1 台風十号襲来
- ●昭和58年
- 3・20 硯島小・中学校閉校式
- 3・26 都川中学校閉校式
- 4・4 早川中学校開校式
- 4・17 薬袋町営住宅竣工式
- 5・9 県営湯島発電所竣工式
- 7・27 井天橋竣工式
- ●昭和59年
- 4・24 保健センター・南保育所竣工式
- 6・14 結婚相談所の開設
- 11・4 白筬史朗山岳写真館開館式
- 歴史民俗資料館開館式
- ●昭和60年
- 1・20 早川南中学校閉校式
- 1・22 早川北中学校閉校式
- 4・5 早川中学校竣工式
- 5・24 山梨県植樹祭（町民スポーツ広場）
- 7・21 在京早川会設立総会（東京）
- 9・26 ヴィラ雨畑の完成
- ●昭和61年
- 4・29 南アルプスプラザの完成

未来への躍進

南アルプス邑
緑濃き山合いの郷。

二十一世紀という言葉の中に、私たちは明るい未来を予感します。しかし発達した文明と複雑化した社会生活の中で、人々は安息の時を、自然への回帰を求めるはずです。自然にあこがれ、自然とのふれあいを求めるはずです。

私たちは二十一世紀に向けて、より良い環境づくりに着手し、その地歩を固め、さらにこれからも進めていこうとしています。多くの人々が快適に住むことができ、豊かな生活ができる魅力ある町づくりに、二十一世紀の未来にむけて決意も新たに挑戦していきます。

農鳥岳と間ノ岳

テニスコート

●町民スポーツ広場テニス場

全天候型のコートで二面あります。近くの草塩温泉民宿を利用してのテニス合宿にも最適で、若い人に人気があります。

八本歯から見た間ノ岳と農鳥岳

●やまめピア

清流が音をたてて流れる山峡に、やまめやニジマスが釣れるやまめピアがあります。釣天狗は渓流釣り、お子さまはつり堀でと各々釣りを楽しみ、釣った魚は塩焼きに。バーベキュー施設もあります。

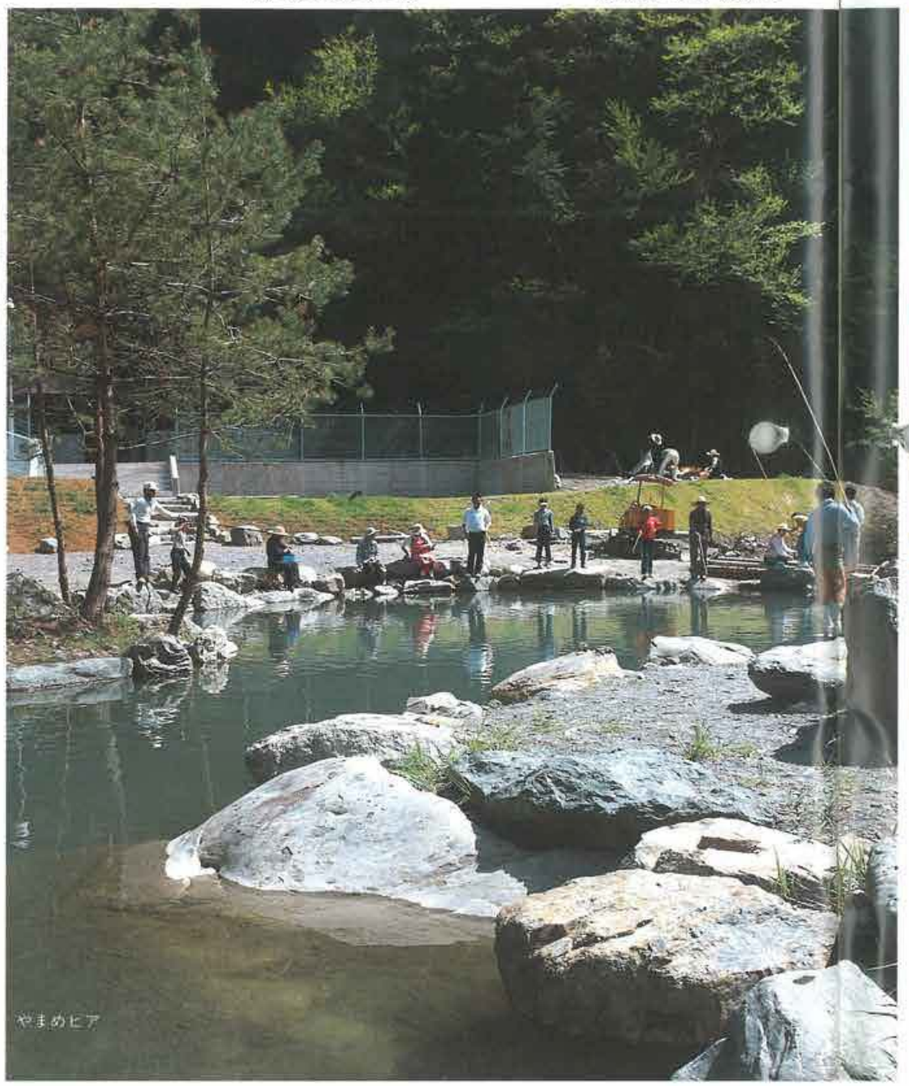
南アルプスプラザ全景

●南アルプスプラザ

町の玄関口に建ち、インフォメーションセンターとして機能しています。特産物の販売や喫茶コーナーもあり、町の観光のシンボル的な存在です。

南アルプスプラザ喫茶室

郷土資料館



やまめピア

●郷土資料館

御料平遺跡などから発掘された石器、土器類や昔からの生活用具など三千余点が展示されています。また写真も展示され町の風俗や生活の移り変わりをみることができます。南アルプス野鳥絵画館も併設されています。

郷土資料館内部

南アルプス、峰々の神秘。カメラの眼がしかととらえる。

歴史民俗資料館

白籏史朗山岳写真館

●南アルプス邑・奈良田の里

南アルプスの自然と、そこに育くまれてきた歴史・文化にふれ、また憩うことのできるロマンの里、それが「奈良田の里」です。秘境の霊湯、女帝の湯として有名な温泉や、世界的山岳写真家で、こよなく南アルプスを愛する白籏史朗氏の情熱とロマンを収める「南アルプス邑白籏史朗山岳写真館」、また奈良田で作られ使われていた特色ある曲物（がわ）のセイロやオハチ、メンパなど暮らしの品々、着物、農具などを展示した歴史民俗資料館などの施設があります。

歴史民俗資料館内部

●グリーンビレッジ・ヴィラ雨畑

雨畑湖温泉の拠点として、和室八部屋、洋室四部屋、食堂、浴室、いろりのある談話室などがあり、山の家として宿泊、体験学習、研修、合宿に利用されています。

ヴィラ雨畑全景

南アルプス邑グリーンビレッジ休憩棟

南アルプス邑グリーンビレッジバンガロー

●南アルプス邑グリーンビレッジ

その名の通り〝緑の中にある村〟で、地域の自然や伝統などの魅力や特性を生かしながら、都市と山村との交流を行うための施設です。

丸太造りのバンガロー七棟、炊事場、水洗トイレなどを備えたキャンプ場、研修室三室、プール、夜間照明付の広場、体育館などがあり、また体験農場や硯島焼工芸などが楽しめる施設です。

奈良田の里温泉

ヴィラ雨畑談話室

●町営キャンプ場

釣橋を渡った赤松林の中にあり青少年や家族づれの野外活動の場として親しまれているキャンプ場です。

町営キャンプ場

大きな自然の中の物語。それぞれのふれあい。

ここでは、自然のすべてが友達です。
木もれ陽あびて揺れる花も
葉陰に姿をみせる、見馴れぬ小鳥も、
清流の岩かげにひそむやまめも、
そして、爽やかに吹く風までも……。

山合いの、ひっそりとした温泉につかり
暮れてゆく山の風情に見いるのも、早川ならではの情緒。
山の奥の秘められた歴史や
この地で生活してきた人々の足跡を
ゆっくりとたどるのも楽しみなものです。

北岳中腹から見た間ノ岳

九山林道から見た南アルプス

赤沢林道から望む

七面山山頂からの富士山

白糸の滝

こごみの滝

北岳中腹から間ノ岳・農鳥岳

雨畑湖

奈良田湖

■文学碑

●牧水歌碑

大正十二年、身延山に参り、赤沢に泊り、七面山に登った時の「身延・七面山紀行」の自筆歌稿から「山襞のしげきこの山いづかたの襞に啼くらむ。筒鳥聞ゆ」を自然石に刻み、羽衣橋ぎわに建立したものです。

●大町桂月歌碑

奈良田から白根三山を縦走した時の歌で、農鳥山頂に建てられています。標高三千m以上にある碑は珍しいものです。

「酒飲みて　高根の上にはく息は　散りて下界の　雨となるらん」

●琴路の碑

伝説、琴路の悲恋を憐れんで建てた碑です。

●田中冬二詩碑

奈良田の焼畑農耕をめぐる当時の生活を、家に残された嬰さまと幼い子に託し描かれた詩です。

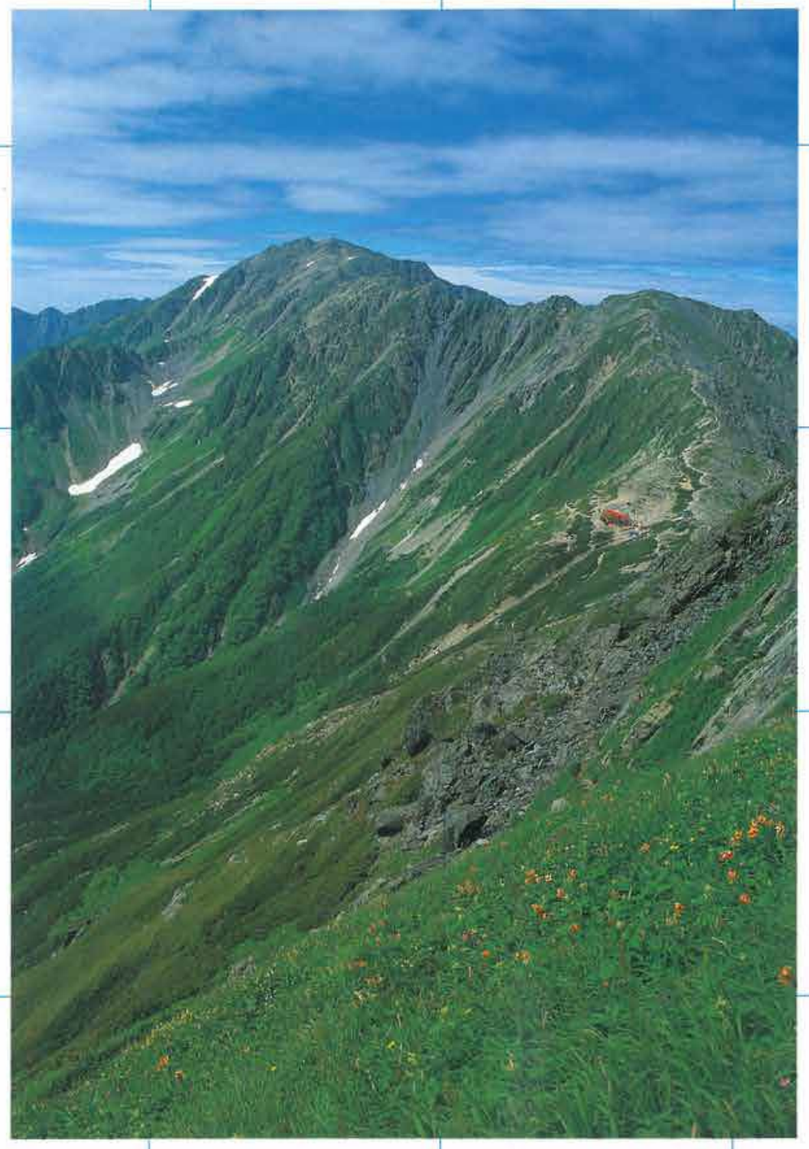
夕暮れは雨となり雨にまじり山焼の灰が降ってきた。
父も母も兄も皆、山仕事に出かけてもう七日、
留守には嬰さまと幼いもの達だけ。
すぐ前の渓の釣橋を渡った山を登り五里も奥、
山の開墾小屋では雑木林を焼き、そこへまずそばを播き、
翌年は粟を、次の年には豆をつくるのだ。（後略）

七面山。信仰の山への身延往還。石畳が語る赤沢の宿。

お万の方像

七面山への道

南アの里に創作の場を求めて



自然があふれる南アルプス邑・早川町へ、生活と創作の場を求めて、町外から移住してきた家族がいます。「過疎脱却の足掛かりになればうれしい。価値感の転換で田舎の生活も楽しくなる。これらの人々が、町内に文化的な刺激となってくれれば…」と今後の活躍を期待しています。

雨畑・米山久志さん

地域に根ざして、作陶、新境地。

「もう〝移住者〟の肩書は外してほしいですね。一住民として定着しましたよ」―。陶芸家・米山久志さん（三六）＝雨畑二三八二＝は五十八年九月、旧雨畑保育所跡に移り住み、岳龍窯を築いて硯島焼の制作を続けている。「硯島焼」と命名したのも「硯島という由緒ある地名が、このままでは忘れ去られてしまう」という地域愛からだ。

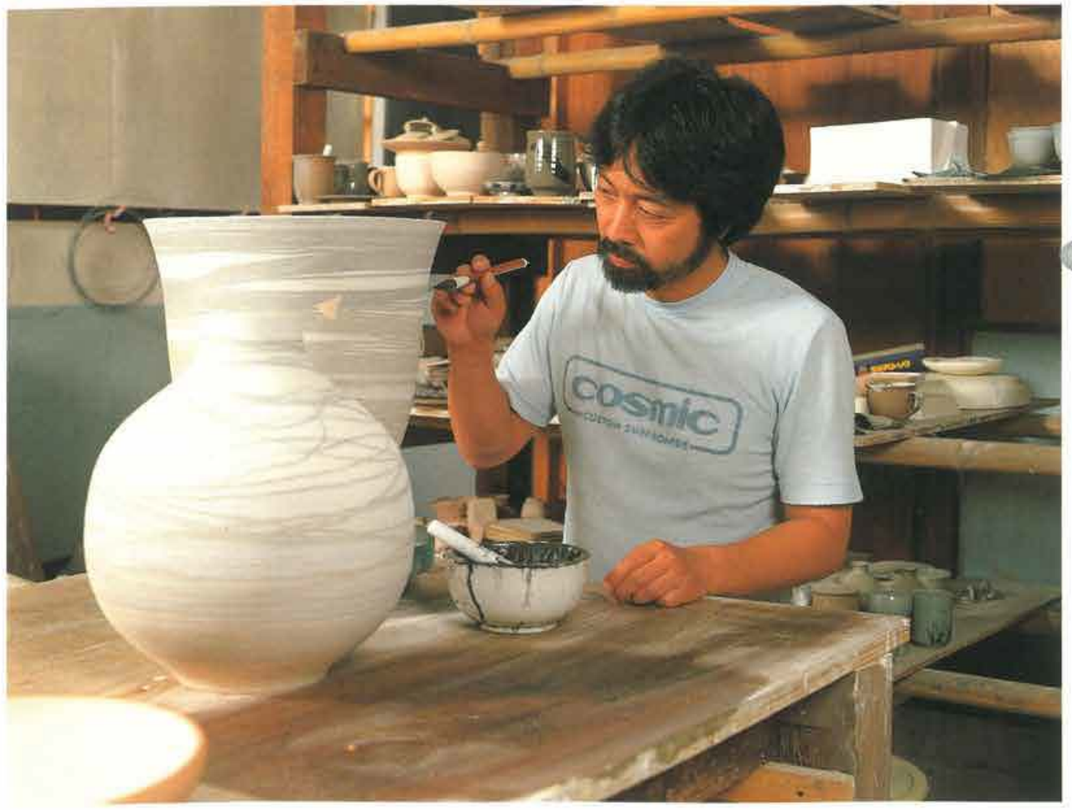
米山さんは秋田県生まれ。明治大学法学部卒業後、茨城県笠間市で陶芸を修業。独立するため築窯の場を求めて東北・北海道・関西の窯場を訪ね歩いた末、早川町に落ち着いた。「自然に囲まれて作陶し、首都圏で発表できるという条件を満たしていることから、ここを選びました」と満足そうにヒゲをなでる。

移住してから築窯するまで、あえて三カ月ほど間を置いた。「作陶より、まず地域の人間関係が大切」という考えからだ。今では衛生委員も務め、近所の人とゲートボールに興じるなど打ち解けている。

妻・のぶ子さん（三五）とは五十九年四月、早川町民会館で挙式。町長をはじめ大勢の町民に祝福されて第二の故郷での足場を固めた。

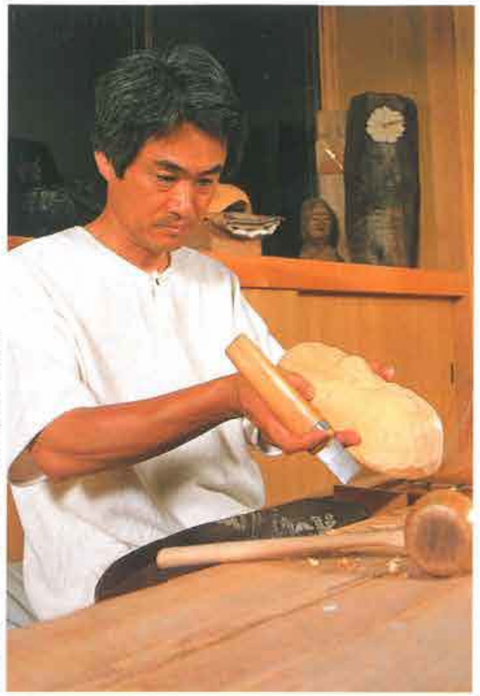
「春は桜吹雪、秋は山一面の紅葉と四季があり、制作の場としても生活の場としても申し分ありません」

作陶にも新境地が開け、現在は「練り上げ」に取り組んでいる。酸化コバルトを濃度を変えて何層かに土に混ぜ、ろくろで一気に仕上げて焼き締めた作品だ。



自然と同化し、能面を、陶芸を。

大島・久村哲生さん



川があって小高い場所で創作に専念できる環境―を求めて千葉県市川市から移り住んだのが能面師・久村哲生さん（四七）一家＝大島二。空き家になった農家をアトリエに改装し、妻・キヌ子さん（四七）は油絵、長女・真代さん（一一）は陶芸に没頭、次女・晃代さん（一一）は早川南小で学校生活を楽しんでいる。

久村さんは能面を打ち始めて十年目。「小面などは一枚で喜怒哀楽を表現するので、ノミを持ったら一心不乱です。それだけに静かで大自然の息吹が感じられる環境が必要だったんです。」という。四年がかりで関東各県や長野県などを回って移住地を探し、キヌ子さんがよく訪れていた七面山が縁で六十年九月、早川町への移住を決めた。

「ありがたいことに近所の人が木を無料で提供してくれるんです。ここには都会の人が忘れてしまった温かさがあります。それを能面に打ち込んでみたい。」

キヌ子さんも「隣の奥さんに教わりながら、畑仕事も始めました」と、すっかり生活を楽しんでいる。真代さんは作陶に打ち込みながら「若い人には不便でしょうとよく言われますが、自分のやりたい事がはっきりしているので平気です。早川町の土を生かした焼き物を作りたい。」と夢を語る。

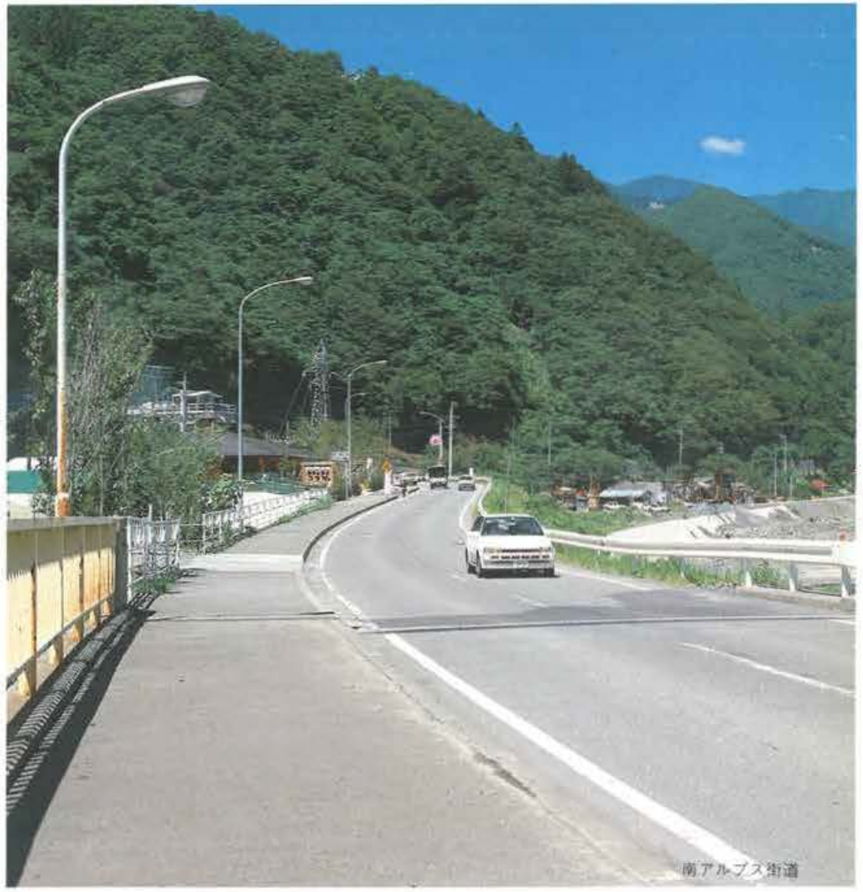
久村さん一家にとって、大島での生活は自然に溶け込むためのワンステップ。晃代さんが学校を卒業するころには、もっと山の奥深くに入って自然と同化したい。」という。

町のすがた 歩み、力強く

〝新しい早川へのみち〟「早川町総合計画」は昭和六十八年度を最終年度とする十カ年の長期計画です。〝潤いと活力のある町づくり〟を目指したこの計画は、次の四つの理念をその基礎としています。

- 自然との語らいのなかで、住みよい町づくり
- たがいに助け合い、心のふれあいを大切にし、人々の健康を守る町づくり
- 身も心も健やかで、学び合う人づくり
- 豊かな暮らしを求め喜んで働くための町づくり

地域の価値を高め、誇りをもって住むことができる魅力ある町を目指して一歩一歩、定められた目標に向って着実に歩みつづけています。


南アルプス街道

町営住宅

自然条件を克服して、住みよい町に。

早川に沿ってはしる県道野呂川～波高島停車場線、県林道の静岡市井川へ通する雨畑林道、および奈良田と増穂を結ぶ丸山林道が町の基幹道路です。

早川沿いの、山と山の間にひらけた早川町は、地形的な制約が多く、道路は一般的に幅員が狭く急カーブも多くありますが、道路は観光や産業の振興、社会開発のために重要な役割りを果すものですから、その改善整備には力を入れていきます。

集落と集落を結ぶ町道は、生活の利便上だけではなく、住民相互のコミュニケーションのためにも不可欠なものであり、更に改良整備していかなければなりません。

林道は九路線・六十一キロあり、未整備部分もありますが、町の九十五パーセント以上を森林が占める町の林道として、また生活道路、観光産業道路としてなど長期的な展望にたった利用度の高い林道を目指していく必要があります。

ごみ収集車

水道は全域にわたって施されていますが、小集落が広範囲に散在しているために整備と管理が容易ではありません。このため小規模な水道の整備統合や水源の確保など給水体制の充実をはかって、生活水準の向上とともに増えることの予想される水需要に応えていかなければなりません。

住宅は九十・七パーセントと高い持ち家率を示しています。また町営住宅は大島・薬袋地内に三棟、十六戸が建設され全戸入居されています。

ごみは峡南衛生組合により収集処理されています。し尿は収集許可業者二社と峡南衛生組合により処理されていますが、今後は収集区域の拡大をはかると共に、環境保全の意味からも家庭浄化施設による終末処理も考えていかなければなりません。

簡易水道施設

■生活環境

1.6ヶ月検診

保健センター

明日に向かって、健やかな日々を築く。

心豊かに生きがいのある生活も、健康であることの上に築かれます。自らの健康は自らが守り管理していかなければなりません。

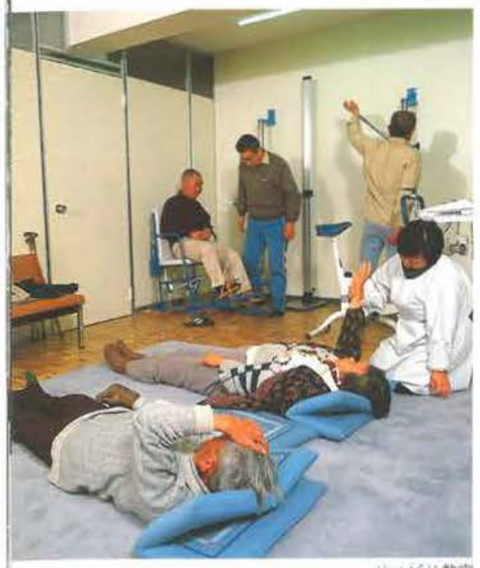
自覚症状があまり早くあらわれず早期発見がむずかしい、いわゆる成人病などへの対策として、町では総合健診を行い対象者の約五十四パーセントが受診しています。また昭和五十八年度からは厄年検診（四十二歳、五十二歳、六十二歳）も実施して、働き盛りの人々への対策を強化しています。

母子健康のためには、特に婚前学級、妊産婦学級を通して乳児と母親との保健衛生に力を入れ、また乳児健診や各種検診を実施して乳幼児の健全な発育をはかっています。

町の老齢人口が二十三・五パーセントとかなり高く、お年寄りの保健はこれからの重要な課題のひとつです。健康診査や健康相談などを一層すすめ、脳卒中などの後遺症による機能回復のためのリハビリ教室など、きめ細かく積極的にすすめていきます。

町には大島と新倉に診療所があります。新倉診療所には昨年から医師が常駐して町民の健康管理に西山と都川地区に出張診療をしています。

また、硯島と五箇へも飯富病院から出張診療をし住民の健康を守る努力をしています。


リハビリ教室

成人病検診

■保健衛生

共に生きる地域の和が、手から手に伝わってくる。

余暇時間が増えたり、また健康への関心のたかまりから、スポーツを積極的にする人々が増えています。町では学校の体育施設の開放を行い、体育館や夜間照明のもとでバレーボールやソフトボールなどが盛んに行われています。町民体育館やスポーツ広場などの開放、活用を積極的にすすめ、今後のスポーツ需要にこたえていこうと考えています。また、野球、ソフトボール、バレーボール、バトミントン、サッカー、テニス、柔道など盛んなスポーツを通して、町民の健康づくりや体力づくりのための場として、施設設備の一層の充実をはかり、町民のスポーツへの参加意欲にこたえていきます。これらの活動は町の体育協会を中心に行われ充実した活動内容となっていますので、町民の健康保持と技術向上のためにも、より活動する体育協会への後押しをすすめていきます。

昨年十月で第十六回を数えた町民体育祭は、年々盛んになり、地域の連帯と世代を越えた交流に役立っています。鍛えた成果を発揮して、地域対抗の競技などでは、なごやかな中にも熱気をおびた闘いが繰りひろげられ、町の和とスポーツの輪をさらに堅いものにしています。

町民スポーツ広場

市町村対抗野球

野球大会

バレーボール大会

町民体育館

夜間照明

プール

マラソン

町民体育祭

自ら学んで生活の幅をひろげている。

栄養教室

私たちの生活は所得水準の向上や技術革新による情報化などにより豊かになり、余暇時間も増えてきました。この時間を利用しての学習に対する意欲もたかまりをみせ、学習への熱意とともにすばらしい成果となってあらわれてきています。

また本町のように、幼齢人口の減少と老齢人口の増加が示す集落機能の著しい低下の中にあって、いわゆる生涯教育を通して調和のとれた人間形成につとめて、地域における役割り、使命を認識するための学習も行われています。

多様化する町民の学習要求にこたえるため、公民館の組織強化をはかって地区の活動の拠点として充実させ、またリーダーを養成して、更に実りある学習内容にすべく努めていきます。地域の文化活動の拠点となる集会場は、大島、雨畑、樽坪に設置し、いつでもどこでも学ぶことのできる〝社会教育の場〟づくりをしていきます。

文化活動は現在、町の文化協会を中心にサークルやクラブの育成に力を入れています。六十年十一月二日、三日には、第二十二回の文化祭が「みんなで育てる文化の花咲くふるさとを」をテーマに行われ、文芸、[illegible]、手芸、生け花、陶芸など多数の展示に文化活動の盛り上がりをみせました。

文化祭

成人式

町民会館

親子創作教室

陶芸教室

講演会

健康教室

ひとりの幸せを、町民すべての幸せにして。

保育所のクリスマス会

経済の高度成長に伴う過疎化減少により、町の老齢人口は昭和四十年が総人口の七・六%であったのに対し、昭和五十五年には十九・〇%、昭和六十年には二十三・五%と急激に増えています。老人福祉は町にとっても重要な課題であるため、その充実をはかるための保健センターの有効利用や住民総合健診の推進などをすすめていきます。養護や介護を必要とするお年寄りへは、寝たきり老人の入浴回数を増やしたり、ボランティア団体と協力して家庭奉仕員制度の充実をはかるなど、生きがいと健康保持をはかるための環境づくりをはかっていきます。さらに知識と豊かな経験を持っているお年寄りに活躍してもらう寿マスター制度や、高齢者生産活動センターの拡充、また老人クラブや寿大学への参加による社会との交流など、生きがいと健康のための施策を推進していきます。

子どもの健全育成は親と社会の連帯責任であり、心身ともに健全な子に育てることは、妊婦の健康管理からすでに始まっています。

北保育所

南保育所

さわやかゲートボール大会

ねたきり老人の入浴

過疎化や共働きの世帯が増え、従来児童に対して家庭が担ってきた教育の機能が低下してきているため、保育所への依存度が高くなってきています。保育所は南保育所と北保育所があり、合計二十九名の子どもたちが、恵まれた環境の中で元気に生活しています。

社会的、経済的に大きなハンディキャップを負っている心身に障害のある人（児）に対しては、障害者手帳の交付、補装具の交付、更生医療の給付等を行っていますが、今後は障害者の生活圏を拡大し、自由な行動をとれるよう公共施設を改善したり、経済的な負担を軽くするなどの施策をすすめていく必要があります。また障害発生の予防のため、妊婦への学習をはじめ、乳幼児の検診をすすめていきます。

また、母子家庭や低所得者に対する資金の貸付けや生活指導など、社会的に不安定な立場の人々に、きめ細かな配慮をしていき、その経済的な自立を促していきます。

高齢者生産活動センター作業棟

老人つどいの家

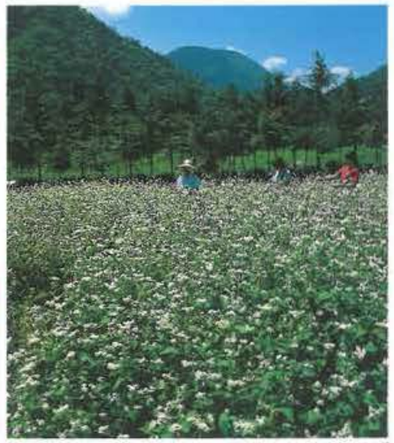
高齢者運動会

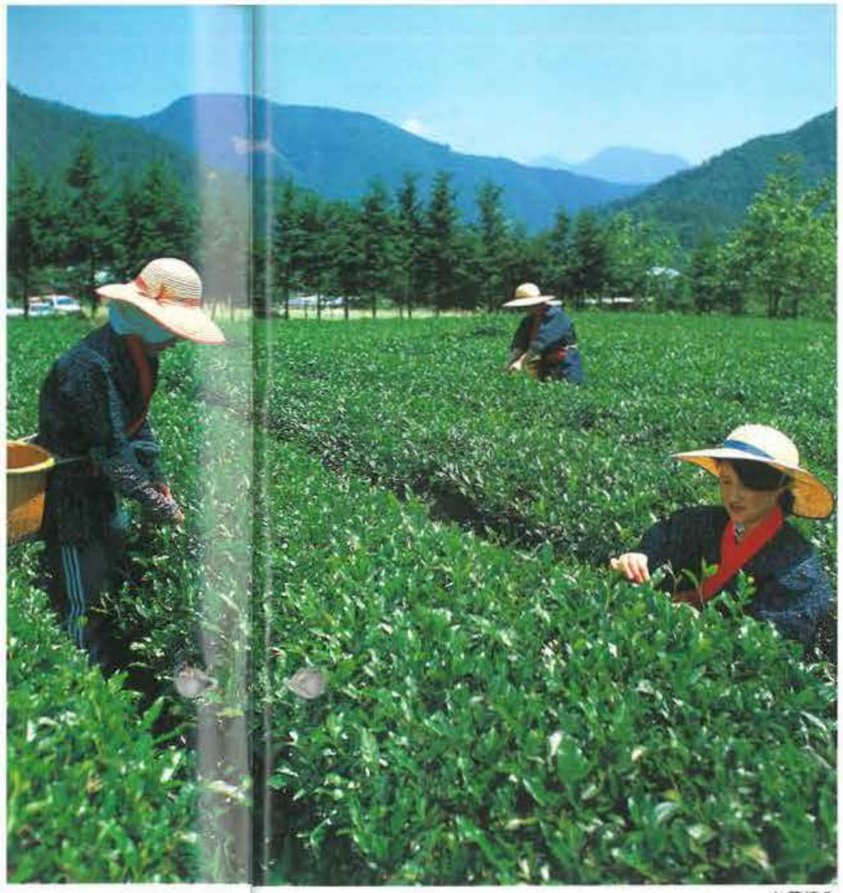
町営草塩温泉全景

町営草塩温泉浴場

地域を活きいきとさせる、バランスのとれた産業の振興を。

稲刈り


そば


お茶摘み

本町の農業は、地理的条件に恵まれず、一戸当りの平均耕作面積は二十八アールと小規模であり、耕地ははとんど畑地です。就労者が高齢化し、また婦女子が多いため、今後、換金性の高い特殊作目の栽培や、農地の集約化を図って作目別の団地栽培をすすめるなどの課題を残しています。

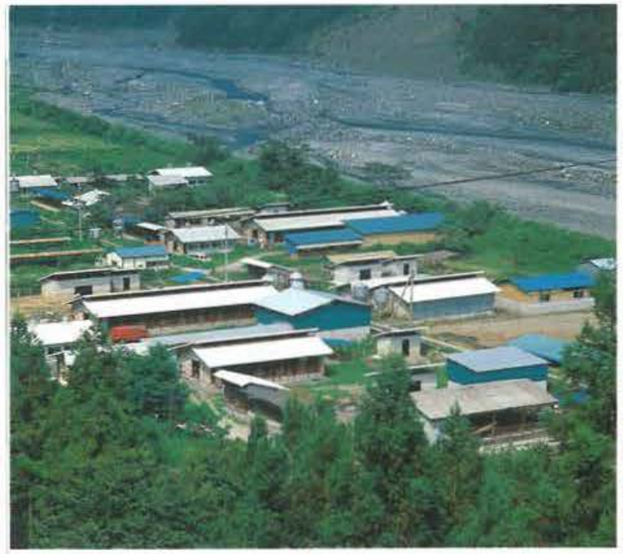
現在は養豚、養蚕、茶、こんにゃく、みょうが、栗、水稲、梅などの作目の複合経営を行っており、特に養豚は順調に推移してきています。また生産された大豆を使って、みそ、しょうゆに加工したり、そば、山菜や山ごぼうの生産を促し、高齢者生産活動センターとの連携活用を考えていきます。

町の九十五・五%を占める山林では、木材の生産やしいたけ、なめこなどの林産物の生産など、山村経営基盤のひとつとして重要な役割りを果してきました。これらの活動は森林組合を中心に行われてきましたが、今後は更に、生産から出荷までを踏まえた活動を基に、林業振興の核としてその強化を図っていきます。また森林は国土の保全や水源のかん養などにも大切な働きをしており、保健休養の場でもあるため、観光的な意味をも含めた林業の振興をすすめていきます。

集落が広い地域に散在しているため、食糧品や日用雑貨の店は小規模経営を余儀なくされています。また消費人口の減少、自動車の普及などによる購買層の流出など、商業にとっては厳しい現状です。今後は地域需要に適した品揃えと住民へのサービス向上につとめ、商店相互のつながりを強めていく必要があります。

工業は過疎対策として誘致した弱電の組立工場があり、婦人の就労の場となっています。町としては伝統産業の硯や農林水産加工産業、例えば茶の加工場やなめこの缶詰工場などを基幹産業として育成し、町民の就労の場を確保するよう努めていきます。また水資源や砂利の有効活用も考えていきます。

立地条件などにより企業誘致は容易なことではありませんが、下山工業団地にあわせて、早川表への地域中核工業団地構想も明るい見通しがでてきました。


養豚センター全景

農協売店

養魚センター

電子部品工場

お茶加工工場

栗拾い

しいたけの栽培

町の次代を担うための早川教育、知・徳・体。

スクールバス

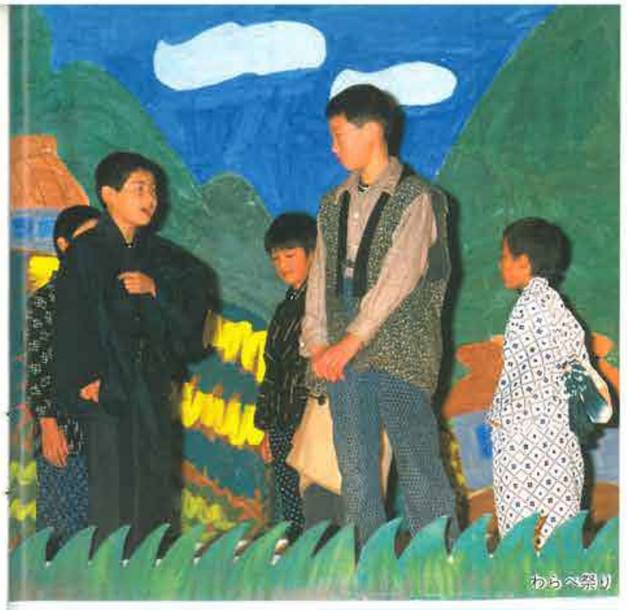
恵まれた環境のもとで、次代を担う児童・生徒たちが勉学に励んでいる姿は、とてもたのもしい感じがします。

文化、自然、郷土を愛し、勤労を尊び、心身ともに健全な人格を形成するために、学校教育はとても重要なもので、町では教育環境の整備に力を入れてきました。特に過疎化からくる児童・生徒数の減少による学校統合を、地域の人人との話し合いを重ねる中で解決してきました。

昭和五十三年に四百五十二人いた児童・生徒は、昭和五十七年には三百三人と激減し、適正な教育規模を確保する意味からも硯島小と早川南小を昭和五十八年に統合しましたが、昭和六十一年四月現在の一学年の平均は十三・六八人であり、なお減少の傾向は続いています。

昭和六十年四月には硯島中と都川中が統合されて早川中となり、新校舎での授業がスタートしました。この建物は鉄筋コンクリート二階建てのモダンな校舎で、校内には災害時に生徒たちが寝泊りできる宿泊室や調理室、音楽鑑賞などができる広い講堂もあります。

統合に伴う数々の問題を乗り越え、新しい町づくりの一環としての、早川教育への歩みを着実なものにしていきたいと思います。


わらべ祭り

早川南小学校

早川北小学校

白鳳祭

早川中学校

■学校教育

"もしも…"の時のために、備え、怠りなく。

防災行政無線

防災訓練

規律ある真剣な訓練

町の消防は三百二十人、六分団で構成され、消防自動車三台、小型動力ポンプ二十四台を有しています。さらに峡南広域行政の組合常備消防と町内への分駐所設置により、救急業務と予防消防を含めた消防体制の強化を図っています。

昭和五十五年「早川町地震防災強化計画」が策定され、防災体制は確立されていますが、地域に住む人々が具体的な方法を知っていなければ何にもなりませんので、訓練を通し、また防災に対する意識高揚を通して更にすすめていく必要があります。

昭和五十四年度に設置した防災行政無線は、日常の広報活動や災害時非常通信などに活用されています。

地勢、地質など厳しい自然条件下にある町の災害を防ぎ、将来にわたって美しい町土を築くための努力は、町をあげて実践していかなければならない事ですので一層の努力をしていきます。

車の普及は一世帯一・〇一台ですが、道路事情が悪い上に自然を求めて訪れる車が増えるなどのために、カーブミラー、歩道、防護柵などを設置してきました。事故原因はドライバーの意識の欠如によるものが最も多いため、モラルを高めると同時に安全な町づくりのために必要な施設の整備拡充をはかり、交通安全対策を推進していきます。

出初め式

■防災安全

■議会

真剣に取り組む、進むべき町のこれから。

■町議会構成図

- 議長
  - 副議長
    - 総務文教委員会
    - 民生振興委員会
    - 議会事務局

■一部事務組合議会

- 峡南広域行政組合
- 峡南衛生組合
- 飯富病院組合

■監査委員

議会風景

町議会は町民による選挙により選ばれた十四名の議員により構成されており、町政運営の方針や予算決算の承認、また条例等の制廃定を決める重要な役割りを担っている、町民の意志を代表する機関です。

六月、九月、十二月、三月に定例議会が開かれ、ここで議決された事項は直ちに執行機関により実行されています。議員は総務文教と民生振興のいずれかの常任委員会に属し、付託案件の審議や調査を行っています。また必要に応じて臨時議会も開かれ、運営に万全を期しています。

副議長
水野定夫

議長
深沢雄二

■行政

確実な歩み、明日への礎。

地域の発展や経済成長、また情報化の進む社会にあって、行政に対する住民の要望も多様化し、多岐にわたるようになってきました。厳しい財政事情の中で、より効率的な行政をすすめていますが、過度の行政依存を招かないためにも行政と住民との責任分野を明らかにし、研修などで職員の資質を向上させて、また事務処理の見直しなど、効率的な行政サービスを行っていきます。

峡南広域圏による計算センターの設置による事務の効率化が図られてきましたが、日常生活そのものまで従来の町村区域をはるかに越えたものになっている現在、行政も広域的、連帯的に共同して処理していく必要があります。広域行政をすすめる上での課題は残されていますが、他町村との緊密な連帯と協力により、なお一層の拡充を図っていく必要があると考えています。

役場全景

役場窓口

●特別町民

都市と山村との交流を目指した〝ふるさと南アルプス邑〟の構想による特別町民は、全国から六百五十六世帯（昭和六十一年度）の参加をいただき、季節の町の特産品を送ったり、また来町して交流を深めるなど、すっかり定着してきました。

特別町民へ特産品を発送

■行政機構図

- 町長
  - 総務課
    - 庶務係
    - 財政係
    - 税務係
  - 企画課
    - 企画係
    - 公聴広報係
  - 民生課
    - 福祉係
    - 保育所係
    - 保健衛生係
    - 住民係
    - 保健センター
  - 建設課
    - 管理・登記係
    - 第一工務係
    - 第二工務係
  - 産業観光課
    - 産業係
    - 商工観光係
  - 高齢者生産活動センター
    - 業務・養漁係
  - 収入役
    - 出納係
- 議会
  - 議会事務局
- 教育委員会
  - 学校教育庶務係・社会教育係
  - 学校給食センター

役場内部

未来の町づくりに真剣に取り組む町長、収入役

■祭り　春の木もれ陽あびて、杉木立の中、三番叟、舞う。

茂倉の三番叟

●茂倉の三番叟
旧暦二月二十一日、国玉神社境内で奉納される県内でも屈指の古い郷土芸能です。

●雨畑湖上祭
山の湖に花火が映り、山国の夏、いっそうの風情。

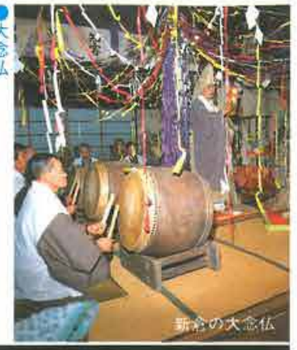
雨畑湖上祭

南アルプス白鳳太鼓

●南アルプス白鳳太鼓
南アルプス連峰にとどろく白鳳太鼓は全身全霊で打つ豪壮な響き。県内諸行事はもちろん、メキシコ・アメリカなど海外でも活躍しています。

●山菜まつり
毎年五月三日に町をあげて行われ、今年で十回目を迎えました。やまめの塩焼きや山菜のてんぷらに舌鼓をうち、ショーやカラオケに楽しい一日を過します。

山菜まつり


新倉の大念仏

●大念仏
京ヶ島、黒桂、早川、新倉、茂倉のそれぞれで行われ、大太鼓や鉦に合わせて念仏を唱えます。

●奈良田の盆踊り
サーヨー追分歌えば奈良田が恋し…奈良田追分が山にこだまして、盆踊りの原点がここにあります。

奈良田の盆踊り

どんど焼

●どんど焼
小正月の夜おこなわれ、まゆ玉を火であぶって一年の無病息災を祈ります。

●茂倉の冠落し（弓張り）
家族の男数だけ弓屋に注連を張って山の神に供えます。山の神が狩猟に熱中する二十一日には山に入らないという"冠落とし"の習わしです。

●投げ松明
盆行事の炎の祭典。虫除けや五穀豊穣を祈ります。

●千灯祭
闇に浮ぶたくさんの灯。講中宿赤沢の新しい夏祭り。

獅子舞

●京ヶ島獅子舞
小正月の十四日に舞われるもので、獅子のたてがみがないところから女獅子といわれ、静かに舞うのが特徴です。

茂倉の冠落し（弓張り）

千灯祭

投げ松明

文化財

時に育まれ、
時を経たもののみがもつ
確かな存在感。
この山合いの町の歴史をいきる、
私たちの貴重な財産・文化財。

京ヶ島の阿弥陀如来像

七面山大トチノキ

●七面山の大トチノキ
七面山裏参道十九丁目栃木安住坊庭の西方にあり、日蓮上人の高弟・日朗上人のお手植といわれています。樹高二十五m、幹囲六・八〇mで県指定の天然記念物です。

●阿弥陀如来像
明応十年（一五〇一）作の銘文がある木像の如来像で、京ヶ島常昌院にあります。像高二十三・六cm、定印座像で胡粉地に彩色してあります。町指定の文化財です。

●地蔵菩薩像
鎌倉末期から室町初頭の作と推定され、素材はヒノキ内刳のある寄せ木造りの仏像です。左手に宝珠、右手に錫杖型の円頂の形相を示しており、座高三十・三cm、台座高二十二・二cm。京ヶ島の常昌院にあり町指定の文化財になっています。

●学定寺のイトザクラ
樹高十一・五m、幹囲二・八〇mのイトザクラの代表的巨樹で、特に幹の太さでは県下稀にみるものとして町指定の天然記念物になっています。

学定寺のイトザクラ

京ヶ島の地蔵菩薩像

●湯島の大杉
下湯島の山王神社にあり、樹高四十四・五m、幹囲十・七九mの巨樹で、県下第一のものであり、全国でも屈指の巨樹です。県指定の天然記念物です。

●七面山の大イチイ
七面山の御神木として尊崇を受けているイチイで、千年をはるかに越えているものと思われます。樹高二十一・五m、幹囲五・九〇mで、本県における代表的なイチイの巨樹です。県指定の天然記念物です。

●西之宮のサイカチ
マメ科の落葉高木で幹や枝に分岐している刺が多い。葉は一―二回の偶数羽状複葉。樹高十mの町指定天然記念物です。

●奈良田八幡神社社叢
社殿の周囲はトチノキを主にシデ、モミを交えた自然林で、その下木にはイロハモミジ、コハウチワカエデ、ハウチワカエデ、イタヤカエデ、ガマズミ、ムラサキシキブ、スズタケ、ムクノキなどが生えています。町指定天然記念物。

奈良田の武田・穴山氏印書三通

●武田氏・穴山氏印書三通
奈良田の深沢家に伝わる文書で、武田晴信印判状（天文十九年・庚戌）、武田勝頼印判状（天正九年・辛巳）、穴山信友判物（信友花押）の三通です。

●不動明王立像
内刹のあるヒノキ材の寄せ木造りで、玉眼が嵌入されています。胡粉地彩色、鋭利な刃法による見事な仏像です。迦楼羅炎を配した光背もすぐれたものです。像高四十八cm、光背高六十四cm、台座高二十cm。黒桂・宝竜寺所蔵で町指定の文化財です。

●絹本著色五大明王像図（一幅）
縦八十二cm、横四十二cmの画面の中央に中尊の不動明王を描き、四隅にそれぞれ四尊を配描した室町末期の密教画と推定されています。宝竜寺所蔵、町指定の文化財です。

●奈良田民家
奈良田の民家として外良寺境内に復元されている建物は、一七五三年建築されたもので、約三十坪、板葺石置屋根造りです。デイという一段高い座敷や、オチマ（作業場）、コエイ（お産をする部屋）など、この地の特長をもった建物で、昔の生活がしのばれます。

奈良田民家

五大明王像図

不動明王立像

●湯王権現鰐口二個
「近隣に隠れた名湯あり」といわれた西山温泉は古くからその名を知られた山の温泉です。その慶雲館の守護神、湯王大権現に、武田信玄が天文年間に、穴山梅雪が天正年間に奉納した鰐口が伝えられており、町指定の文化財になっています。

西山温泉の鰐口二個

●大島の共同水車
羽根車の下の部分を直接流れに触れさせて、回転する力を利用して玄米を精白します。大正のはじめ建造され、約三十五年間使用されていたもので、本町に残る水車の中で原形をとどめている唯一のものです。

■指定文化財一覧表

名称	所在地	種類
七面山の大トチノキ	高住栃原山834	県指定天然記念物
湯島の大杉	湯島上ノ山1048	県指定天然記念物
七面山の大イチイ	赤沢字向山1347	県指定天然記念物
奈良田の生活用具100点	奈良田・民俗資料館内	県指定民俗資料
京ヶ島の夫婦杉	京ヶ島	町指定天然記念物
学定寺のイトザクラ	夏秋	町指定天然記念物
初鹿島の大アラカシ	初鹿島	町指定天然記念物
西之宮のサイカチ	西之宮1018	町指定天然記念物
奈良田八幡神社の社叢	奈良田字塩島766	町指定天然記念物
阿弥陀如来像	京ヶ島常昌院内	町指定彫刻
地蔵菩薩像	京ヶ島常昌院内	町指定彫刻
不動明王立像	黒桂171宝竜寺	町指定彫刻
絹本著色五大明王像図	黒桂171宝竜寺	町指定絵画
大般若経600巻	保、朝晨庵そば	町指定書籍
深沢輝一家文書三通	奈良田、深沢輝一方	町指定書籍
湯王権現鰐口二個	西山温泉慶雲館内	町指定工芸
奈良田の麦つき唄	奈良田	町指定無形文化財
奈良田民家	奈良田	建造物
大島の共同水車	大島	建造物

西之宮のサイカチ

初鹿島の大アラカシ

七面山の大イチイ

奈良田八幡神社の社叢

初鹿島の大アラカシ

京ヶ島の夫婦杉

●京ヶ島の夫婦杉
八幡日吉神社の社殿前広場に二本の杉があり夫婦杉と呼ばれています。両樹とも県下有数の巨樹で、このような巨樹が二本あることは珍しいとされています。町指定天然記念物。

●初鹿島の大アラカシ
崖上の急傾斜地にあり、暖地性植物の北限での巨樹として貴重なものです。樹高十八m、幹囲三・七〇m。町指定の天然記念物です。

●大般若経六百巻
文和三年（一三五四）より応永十七年（一四一〇）の五十六年間に執筆されたものです。宝永六年（一七〇九）二十八巻の欠巻がわかり補巻。昭和四十年代に十五巻補巻されています。紙本墨書・保の朝晨庵所蔵の町指定文化財です。

大般若経600巻

●位置・地勢

早川町は山梨県の南西部に位置し、東西十五・五キロ、南北二十八キロの帯状をした、三六九・九六平方キロの広大な区域を有しています。北部は芦安村と、東部は増穂・鰍沢・中富と、南部は身延町と接し、西部は静岡県井川に接する県境の町です。

町は白根山系と櫛形山系に囲まれたところで、両山系のほぼ中央を早川が貫流しており、これに支流が注ぎこんでいます。地形が急峻であり、また水量が多いために水力発電が大正末期からはじめられ、現在は十三ヶ所の発電所により出力十九万キロワットの発電がなされています。

中央自動車道の開通により、東京から百八十分、日立市や静岡県清水市とほぼ同距離になったことにより、豊かな自然や休息を求める人々の格好の地となっています。

●町の沿革

昭和三十七年、早川部落の早川河原に近い丘陵から縄文後期の土器が発見されたのを皮切りに、御料平遺跡や久田子遺跡など十八ヶ所に及ぶ丘陵から土器や土器片が発掘され、縄文後期、すでにこの早川流域に人々が住んでいたことが明らかとなりました。

戦国の武田氏の時代には、長畑や保に金山が開削され、この地を領した穴山氏の殖産興業政策とも相まって、武田氏繁栄の有力な資源となっていました。また、文化年間の甲斐国誌には、この地方に十九ヶ村あったことが記録されています。これらの村々は明治初年以来、それぞれ合併や離反の変遷はあったものの、大正初期には本建、五箇、硯島、都川、三里、西山の六ヶ村に統合され、昭和三十一年九月三十日をもってこの六ヶ村が合併して早川町となり現在に至っています。

御料平遺跡からの出土品

町の木■かつら

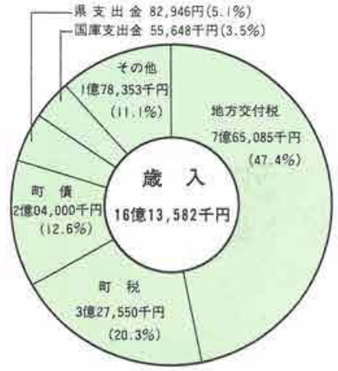
カツラ科の「カツラ」(桂)で、全町に生育し、その形態はまっすぐに伸長し、材質は軟硬適度であって、古来めでたい木といわれている。

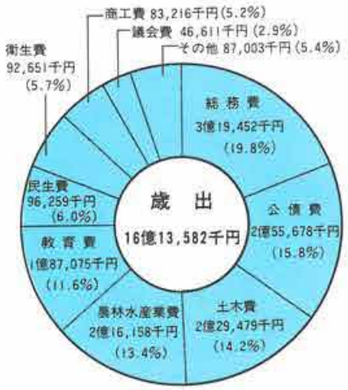
町の花■つつじ

ツツジ科の「ミツバツツジ」で、春四月、全町の岩場に咲くもので、古来農作業などの季節を告げる花として、住民に親しみ深い花である。

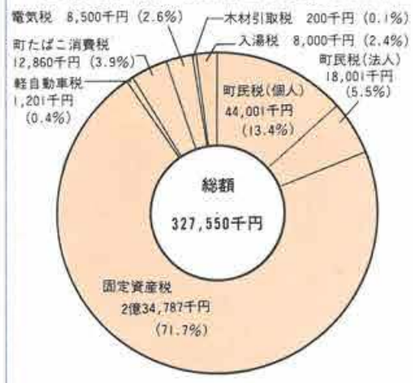
■町の財政

■昭和61年度一般会計当初予算

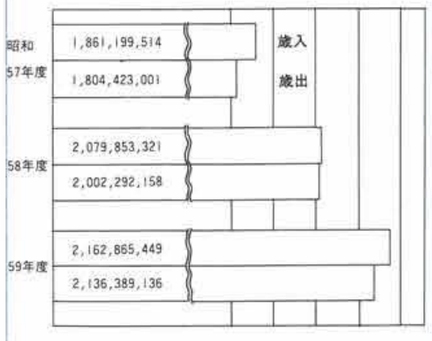




■昭和61年度一般会計当初予算町税内訳



■一般会計決算額の推移



●町の特産 山国の幸

■お茶
気候をいかし茶が栽培され、町内で製品に加工され「甲斐のみどり」として好評をいただいています。

■しいたけ・なめこ
豊富な森林資源をいかした町の特産品として皆様からご好評をいただいています。乾しいたけに、また甘露煮、缶詰めにとおいしい味をそのままに食べていただけます。

■そば
町で採れたそば粉を使い作ってあります。そば本来の味を楽しんでいただけます。

■やまめの炉ばた焼
清流におどるやまめを、昔、炉ばたでじっくり焼いたように、味も風味もにがさず、おいしく焼いてあります。

■白鳳みそ・こんにゃく
町で生産される大豆で、昔の知恵を生かしながら作った白鳳みそは自慢の味。こんにゃくも町の産物です。

■雨畑硯
中国の端渓にも匹敵するといわれる硯石の産地で、昔ながらの手造りの伝統を生かした硯の生産が行われています。

■山菜
フキ、フキノトウ、ワラビ、タラノメ、ヨモギなどの山菜の宝庫。毎年五月に行われる町をあげての「山菜まつり」も盛大です。

はやかわ
町制施行30周年記念
早川町●町勢要覧'86
発行 早川町役場
山梨県南巨摩郡早川町
企画編集 早川町役場企画課
発行日 昭和六十一年九月二十五日
制作 株式会社サンニチ印刷

表紙写真：白簱史朗氏　西農鳥岳から農鳥岳と富士山